

楽農生活フェア 秋の収穫祭2009開催！！

楽農学校OB会【焼きそば販売】 船曳 活郎

昨年はおでんを販売、今年は焼きそばで行こう、全員賛成で決定した。今回から新しく女性2人が加わり3人と男4人の7人が、感謝祭（11月15日）に参加できるメンバーに決まる。11月10日、朝から当日参加できない仲間と一緒に、焼きそばに必要なソース等諸々の買い物や2組の鉄板・コンロの準備をする。

前日の14日（土）朝から集合して、本番用の豚肉・キャベツ切り・ソースの配合等の仕込みをして準備OK。明日の販売を意識しながら次は試食だ。指導員の先生方にも食べてもらい皆で「この味イケルゾ」

当日、寒い日の予定が予想外に好天に恵まれた。ところが仕事の関係で1人欠員となり、6人となる。なにせ全員初めての経験であり、大変だ。2箇所の焼きそば大丈夫だろうか、不安を抱えながら、一致団結して頑張るしかない。

さあ準備完了、開始前に6人で記念写真を撮る。

全員が持ち場に到着、販売開始。西村会長と私が、2台の鉄板の前で緊張しながら焼きそば開始、中村副会長が愛想良く販売、後方



支援の鈴木さん・岸本さん・関本さん3人は材料の準備や調味の量とかフル回転で大変な忙しさ。

しかしそれぞれが自覚を持ち、昨日までの入念な準備のおかげで、不思議なほどにスムーズに流れ、6

人一丸の状態である。

会場内は沢山のお客さんで、いろんな店や催し物が開かれている中、最後まで持ち場を離れる余裕は無かったが、全員一所懸命に頑張っ、昼頃には300食完売だ。無事終えた満足感で不思議な程、気持ちが良い。

事務所へ帰り、コーヒーを飲むとほっとしたのか、快い疲れを感じた。

焼きそばを待ち並んでいるお客さんに対応して下さったOB会の方、これまで準備をしてきたが、当日それぞれの事情で参加できなかった浅井さん・石井さん・横山さん、ありがとうございました。

この感謝祭を終えて、さらに一体感が生まれた感じがします。感謝、感謝の焼きそばでした。今後とも楽農学校OB会をみんなで支え、さらに発展させていきたいので、ご協力よろしくお願ひします。

第1回農場見学会

10月17日（土）に農場見学会が行われました。天気予報では少々雨が降るとのことでしたが、当日は全く降る事がなく無事に見学が出来ました。参加者約20人程の皆さんと車に分乗し、石井さんの農園へ行きました。続いて浅野さん、最後に藤澤さんの農場に行きました。



参加者の皆さん(左)
ハウスの内部を説明する石井さん(右)
たまねぎの苗を育苗中(下)



苗など育成の為の温度管理室の中(左)
ハウスの内部を説明する浅井さん(右)
美味しそうなメロン(下)



ハウスの内部を説明する藤澤さん(左上 右から3人目)
イチゴハウスの内部(右上) 空調設備と水、肥料の管理設備(左下、右下)

石井さん夫婦の仲むつまじく農場を切り盛りしている姿が目につく、微笑ましく思いました。浅野さんは本や経験者の話を聞いて自分なりに工夫し、試行錯誤されている様子が良く分かりました。藤澤さんのイチゴハウスは今まで見たことのない、ハイテク農園でビックリしました。高設栽培はイチゴ狩りをする時に楽でいいですよ。食べてみたいなあ思いました。

見学会にご協力頂きましてありがとうございました。参加された皆さんは如何でしたでしょうか？メモを取りながら熱心に聴かれる方、質問される方を見て、農業への情熱を感じました。感想やご要望などありましたら、どしどしOB会までFAX、もしくは会長宛にメールして頂ければ有難いです。

私自身は野菜・果物作りから離れていますが、「やっぱり、野菜や果物を育てるのはいいな」と改めて感じました。農場見学会、とても楽しかったです。皆さんのお陰で開催できて良かったです。ありがとうございました。

記念講演「コウノトリと自然農業」

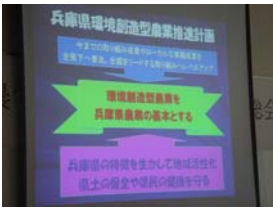
8月29日(土) 楽農生活センターに於いて、楽農学校OB会の平成21年度定期総会が行われました。20年度の活動報告と会計報告、21年度の活動計画と会計予算について、ご案内しました。その後、兵庫県環境創造型農業専門員の西村いつき様を迎えて、「コウノトリと自然農業」についての講演会が行われました。

当日は沢山の方々にお越し頂き、ありがとうございました。講演の内容を当日配布されたパンフレット等を参考に少し紹介致します。

兵庫県の豊岡市では「コウノトリ育む農法」という事業を推進しています。



コウノトリ育む農業の定義—
おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリもすすめる豊かな文化、地域、環境作りを目指す為の農業。(パンフレットより)
地域から県へ、県から全国へ、環境創造型農業を展開していく。



コウノトリの絶滅の主な要因

1. 油を採るため松ノ木を伐採したので巣を作る松ノ木が少なくなった。
2. 農薬によるコウノトリのエサとなる小動物の減少。食物連鎖の頂点に立つ人間も環境ホルモン等の影響を強く受けている。このままではコウノトリと同じ運命を辿ってしまう危惧がある。

コウノトリがすすめる環境を取り戻す事が人間の環境を守る事にも繋がる。

農家への説明

コウノトリの為に農薬を使用しない農業は出来ない！わしらよりコウノトリの方が大事なのか！といった反発が多かった。

稲の苗を踏んでしまうのではないかと——朝早くからコウノトリの追っかけをし、田んぼに降りたコウノトリが何歩歩き、苗をいくつ踏んだのかを地道に調査。結果、殆ど踏む事がなく、踏まれても育たない苗は僅かである事が判明した。

小動物が増えると、例えば蛙はウンカやカメムシなどを食べるので、駆除の手間が省ける。特殊な水管理でヒエやコナギといった草が生えにくくする事が出来る。

地域でコウノトリ育む農法を行う事により、作物に付加価値がつく。認定証の発行。農家への地道な説明により、少しずつ受け入れて下さるようになった。



農法の研究

1. 早期湛水(通常より早めに田んぼに水を張る)ヒエが早く発芽するので田植えまでに代掻きをすれば除草の手間が省ける。
2. 夏の深水管理(田植えより約40日間は湛水管理を続ける)オタマジャクシや昆虫、小魚が増えるのでコウノトリのエサとなる。
3. 中干し延期(通常より期間を長めに湛水状態にする)蛙が害虫のウンカやカメムシなどを食べてくれるので、駆除の手間が省ける。
4. 冬期湛水(稲刈り後、暫くしてから水を張る)稲のワラが微生物により分解される。ミジンコ、プランクトンなど小魚のエサが増える。



コウノトリは人に教えられなくても、目印がなくてもエサの多い田んぼを見分けられる。

地域との結びつき

ボランティアや地域の学校の生徒向けに教材として活用。

1. コウノトリの飛来調査。田んぼの生きものがどれくらいいるのかの調査。
2. 農家のお手伝いでお米を育てたり、実際に販売する。

日本の食糧自給率は40%もない状態を知る事や、自分達で育てたお米を販売することにより、農業や食への関心が高まる。学校給食でもこのお米を使用している。

適切な価格と販売ルートの確立。

最近では酒米や大豆もコウノトリ育む農法で栽培されている。手間隙かけたお米などが適正な価格で販売される事が、農家を守る事に繋がる。購入者に分かるように、どんな想いでどのように育てられた作物であるのかをアピール。

地域の活性化、農業の活性化に繋がる。

当日は皆さん、熱心にお話を聴いておられました。ただ単にコウノトリを自然に帰すというのではなく、人間にやさしい環境を取り戻すには、コウノトリにやさしい環境にする事が大切なんだなあと思いました。今年、西区にもコウノトリが飛んできたそうです。これからももっと人間にやさしい環境が増えると良いですね。

(コウノトリ育む農法パンフレットより一部抜粋)

最後になりましたが、西村いつき様には大変貴重なお話を頂き、ありがとうございました。

原稿大募集！！

エッセイ、体験談等を募集しています。(400字程度)
社団法人 兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター
〒651-2304

神戸市西区神出町小束野30-17

電話078-965-2047

FAX078-965-2659

ご意見や感想等(原稿も可)はメールへお願いします。

西村 — h-nishimura@mqc.biglobe.ne.jp

編集後記

関本です。一年、あっという間ですね。今回も無事に発行出来ました。紙面の編集の段階になり、パソコンの調子が急に悪くなり、焦りました。感想を寄せて下さった会員の方、ありがとうございます。感謝感激です。

寒い日が続く、インフルエンザも流行っています。くれぐれも体調には気をつけて年末年始をお過ごし下さいませ。今年一年、ありがとうございました。来年もご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。